

## CONTENTS

洋学資料館の夏休み教室開催！	2・3
企画展 解体新書と美作の洋学者たち	4
友の会のページ 研修バス旅行報告	5
資料館展示品から	6
NEWS FILE	7
INFORMATION（催し物のご案内）	8

# 洋学 資料館

No. 11

September, 2013

美作市海田にある、古くから医家を営んできた山田家の庭です。夏、夕闇が迫るころに、チョウセンアサガオ（マンダラゲ）の白い花が咲き始めます。

紀州の華岡青洲は、この花から麻酔薬「通仙散」を作り、世界で初めての全身麻酔による乳癌摘出手術を成功させます。その高名を慕って、青洲の医塾には全国から多くの弟子が集まりました。山田純造もまた、幕末に大坂にあった華岡流外科の分塾・合水堂で学んでいます。もしかすると、この花は、修業を終えた純造が帰郷する際に持ち帰ったのかもしれない。（美作市海田）



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



洋学資料館の  
夏休み教室開催！



▲今回は参加者の皆さんが持参したTシャツに、白い野路菊の絵を描きました。Tシャツの色によって、仕上がりの雰囲気もさまざまでした。

洋学資料館が新館へ移転してから迎える4度目の夏。今年も、夏休み教室を開催しました。

7月28日(土)には、kinukoヒンダローペンスタジオの永江絹子先生を講師にお迎えし、午前は小学生と保護者を対象にした「親子でヒンデローペンの作品づくり」、午後は一般を対象とした「ヒンデローペン絵付け体験教室」を開催しました。

昨年までの教室では、下絵があるものにアクリル絵の具で絵付けをしていましたが、今回は初めて下絵を転写するところから挑戦しました。参加した皆さんは真剣な面持ちで絵付けされ、仕上がると一転ニコリとした表情で、作品を見せ合っていました。早速、着替えて帰られる方もいました。

8月1日(木)には「江戸時代の化学書からの実験教室」を開催しました。今回も『舎密開宗』の中から、津山高専の廣木一亮先生、佐藤誠先生、津山高専の矢本卓先生、浜本卓也先生と、各校生徒の皆さんの指導により、「榕菴先生が見た燃焼の真実―ロウソクはなぜ燃える?」と「七色ガラスの不思議」の二つの実験を実施。例年、午後1回の実験教室ですが、今年は参加希望が数多く寄せられ、定員を超える大盛況となったことから、急ぎよ、午前、午後と1日2回の開催となりました。

参加した子どもたちは、ガラス瓶の中で激しく燃えるスチールウールに驚き、また、いろいろな鉱物を混ぜることによって色が変わったガラスに興味深げに観察していました。教室終了後、津山高生たちによる学習支援活動も行われ、有意義な時間を過ごすことができました。

復元蘭引が  
寄贈されました



備前焼作家の紀琇山先生から、江戸時代の蒸留器具「蘭引」を備前焼で復元した作品を寄贈いただきました。紀先生には、昨年も展示用・実験用にと蘭引2点を寄贈いただきましたが、今年はさらに一回り大きい蘭引を作成され、1点をいただきました。

実験教室と同日の午前中に作品を受贈し、田村教育長から感謝状を贈呈しました。その後、紀先生も、教室に参加した子どもたちと一緒に蘭引の蒸留実験の様子を見守られました。

▶実験に見入る紀先生(右から2人目)ご夫妻と参加した子どもたち



6月8日(土)に第33回友の会研修バス旅行が開催されました。今回は緒方洪庵没後150年・適塾開塾175年を記念して、大阪にある洪庵関連史跡を巡りました。緒方洪庵といえば、宇田川玄真の門人であり、その私塾・適塾では若き日の眞作秋坪が蘭学を学ぶなど、津山ともゆかりの深い人物です。



今年「解体新書」の出版で中心的な役割を果たした杉田玄白の生誕280年に当たります。これを記念して、今回の企画展を開催しました。玄白をはじめ、前野良沢や中川淳庵、桂川甫周らが出版した『解体新書』は、日本最初の西洋解剖学の翻訳書で、この書の刊行によって江戸での蘭学が産声を上げました。美作地方では、津山藩医宇田川玄随が、玄白らに蘭学を学んだことをきっかけにして、洋学者が輩出され、近代日本の発展に貢献しました。そこで、玄随や玄白門人の小林令助をはじめ、ゆかりのある美作の洋学者の資料を中心に展示し、杉田玄白と美作の洋学者たちとのつながりを感じていただけるように工夫しました。美作国勝南郡岡村の医師、小林令助は玄白のもとで蘭学を学び、郷里に戻って開業します。美作に帰った令助に玄白は書簡を送っており、小林家には8通の玄白自筆書簡が残されています。今回はそのうち5通を展示しました。今回の展示をご覧になった来館者の中には、木版で印刷された『解体新書序図』と『重訂解体新書』の『銅版全図』中の同じ箇所を見比べ、江戸時代の印刷技術に感心する人や、玄白の孫・成卿と眞作阮甫が翻訳した、アメリカ大統領の親書の写しを興味深そうに見る方がいました。また、「霜月十四日付小林令助宛杉田玄白書簡」に添えた現代語訳を読みながら、しきりに感心されている方が多くいたことが印象的でした。

最初に訪れたのは適塾です。適塾は、洪庵が幕末に設立してから、幕府に招かれ江戸に行くまでの25年間に、約1000名の塾生が学びました。秋坪の親友・福沢諭吉をはじめ、橋本左内や大村益次郎も適塾の出身です。その適塾を、大阪大学適塾記念センター特任研究員の福田舞子さん、二宮美鈴さんの案内で見学しました。次に、すぐ南側にある除痘館記念資料室を見学。洪庵は大坂や足守で種痘の普及に努めています。津山の種痘は、その洪庵から分苗してもらって始まったのです。ここでは緒方記念財団事務局長・川上潤さんにご講話いただき、その上、記念館で発行されている冊子もいただきました。その後、くすりの道修町資料館・少彦名神社を見学。参詣しました。道修町は江戸時代から続く菓の町で、現在も有名な製菓会社の本社があります。そして、洋学資料館にある漢方薬の展示品は、道修町にある小城製菓という製菓会社からご寄贈いただいたもので、資料館とも少なからず関係があります。その道修町で保存されて



くすりの道修町資料館



大阪大学総合学術博物館

いた文書などを展示する資料館では、館長の深沢恒夫さんに道修町の歴史をわかりやすく説明していただき、また、道修町で菓の神様として慕われている少彦名神社では宮司の別所俊顕さんから神社についてご説明いただきました。昼食後、大阪府豊中市にある大阪大学総合学術博物館を見学。ここでも福田舞子さんに案内いただきました。当日は梅雨時期とも思えない良いお天気でした。参加した皆さんも暑いなか、各施設で丁寧なご説明をいただき、非常に満足して一日の見学を終えた様子でした。今回の研修旅行について、各施設の皆様にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

### 時代を見越した確かな目

## み づくり げん ぽ おお むら あや お 箕作阮甫の大村斐夫宛書簡



嘉永6年(1853)年、ロシアのプチャーチンが、開国交渉のために、艦隊を率いて長崎に来航しました。その対応のため、幕府は使節団を長崎に派遣しますが、箕作阮甫も、これに随って出張します。交渉は副使の川路聖謨が中心となつて行い、阮甫は、川路の傍らで、直接外交文書の翻訳に携わりました。翌年正月18日に長崎での交渉を終え、使節一行は帰国の途につくこととなります。この書簡は、その帰途芸州沼田本郷(広島県三原市)の宿舎から津山藩儒・大村斐夫に宛てて出されました。書簡中で、阮甫は、ロシアとの交渉の様子や、アメリカ船の浦賀来航など当時の緊迫した外交情勢を記しています。手紙の後半で、阮甫はこの書簡を「有志の同社」にも見せてほしいと依頼しています。ただし、同時に、「あまり公然とするのはどうか」とも言っています。その理由は明確には書かれていませんが、書中で古来の兵法や弓矢刀槍を使った戦闘を否定し、旧例にとられない対応と人材登用を提案していることが理由の一つかも知れません。これらは当時としては非常に大胆で、なおかつ「お上」に対する批判ととられるかも知れない意見だからです。実は、阮甫が長崎に赴き、外交交渉に携わることとはかなり広く知られていたようです。津山市内の神社に残された資料に、そんなことを推測させる書き付けがありました。その書き付けは「唐人一条二付天もん方つうじの

ため長崎表十月三十日出立之方左「」此方様之御医師 箕作玄甫「」という一文から始まります。そして、幕府や藩から支度を下賜されたこと、阮甫の乗り物を始め、供揃いの内訳など、かなり具体的に記されています。ここからは津山の人々が阮甫の動向にいかに関心を払っていたかがうかがえます。そのため、阮甫は自分の言動に気を配らねばならず、幕政・藩政に対する不満ともとられかねない意見を大つぴらにできないと考えたのかもしれないと推察されます。

時代はその後、緊迫感を増していき、最終的には阮甫の述べた意見の通りの状況になっていきました。洋学者・箕作阮甫の見識の高さがうかがえる資料と言えます。

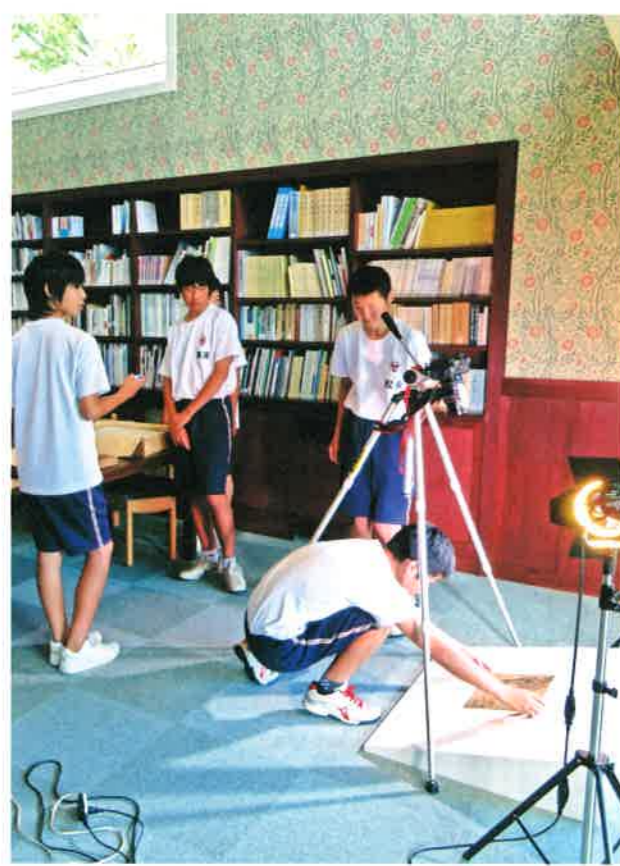
文：学芸員 乾康二

▲阮甫の意見が述べられている部分

### NEWS FILE 資料館で 職場体験学習実施

津山東中学校の勝浦巧実君、兼本理玖君、新田歩君、松永隆太郎君、柳井遼介君が、「つやまっ子デビュー14」で、職場体験活動を行いました。

6月12日(水)から14日(金)までの3日間の日程で、資料館の撮影や展示解説など、さまざまな仕事に取り組んでくれました。最終日には「資料に触るのが一番緊張した」「勉強になった」などと話してくれました。



▲5人で協力して浮世絵の撮影を行いました。

### 県立美術館・博物館で 洋学資料展示

美作国建国1300年を記念して開催された、岡山県立美術館の「美作の美術展」(会期：5月31日(金)～6月30日(日))、岡山県立博物館の「美作の名宝」展(会期：7月25日(木)～9月1日(日))に、資料館の収蔵品が展示されました。

両館とも会期中に洋学をテーマとした講座・講演会を実施され、津山の洋学に興味を持っていただく良い機会となったのではないのでしょうか。



### 県生涯学習センターで 津山の洋学を紹介

7月20日(土)から29日(木)まで、岡山県生涯学習センター人と科学の未来館サイピアで、企画展「江戸の科学の夜明け～岡山が生んだ洋学者・宇田川家三代の活躍～」が開かれました。

この企画展は、資料館が企画協力して開催したもので、初日と8月11日(日)には、当館学芸員が展示解説を行いました。

サイピアでの展示をご覧になり、「もっと詳しく知りたい」と、資料館まで訪ねてくださった方もいました。

### 資料館で 博物館実習実施

7月26日(金)から8月1日(木)まで、京都造形芸術大学の茂渡実花さんが博物館実習を行いました。夏休み教室の準備・補助や資料の撮影、目録整理、展示の企画など、6日間の忙しい日程に、真剣に取り組んでくれました。

実習後には、「鑑賞者側でいるだけでは分からなかった、多くの発見をすることができました。今後この経験を生かしていきたいです」と、感想を綴ってくれました。



# INFORMATION

平成25年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「岸田吟香～わがふるさと～」</li> <li>21 第68回文化講演会 講師：法政大学通信教育講師 土井康弘 先生</li> <li>21 友の会総会 (休館日：22・30日)</li> </ul>	4/20～ 生誕180年記念 岸田吟香 わがふるさと～は～ ～6/23
5月	(休館日：1・7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日)</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「解体新書と美作の洋学者たち」</li> <li>28 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日)</li> </ul>	7/6～ 解体新書と美作 の洋学者たち ～9/29
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 江戸時代の化学書からの実験教室 (休館日：5・12・19・26日)</li> </ul>	
9月	(休館日：2・9・17・18・24・25・30日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「よみがえる長崎 出島のくらし」 (休館日：7・15・16・21・28日)</li> </ul>	10/12～ よみがえる長崎 出島のくらし ～11/17
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会 (休館日：5・6・11・18・25・26日)</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「くらしと実学 一用水路を掘れー」</li> <li>14 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム「美作の人 岸田吟香の情報経営学(仮)」 岩下哲典先生・下山純正先生 (休館日：2・9・16・24・25・27～31日)</li> </ul>	12/1～ くらしと実学 (仮) ～3/9
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・6・14・15・20・27日)</li> </ul>	
2月	(休館日：3・10・12・17・24日)	
3月	(休館日：3・10・17・22・24・31日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会



よみがえる  
長崎 出島のくらし

平成25年度津山洋学資料館秋季企画展

会期 平成25年10月12日(土)～11月17日(日)

会場 津山洋学資料館企画展示室

江戸時代、日本が西洋に向けて開いていた、ただ一つの窓だった長崎出島。出島でのオランダ商館員たちの生活とともに、貿易や蘭学普及など、出島の果たした役割を紹介します。



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

**「美作の人 岸田吟香の情報経営学(仮)」**

日時：平成25年12月14日(土) 13:30～

会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

基調講演：明海大学教授 岩下哲典 先生  
対談：明海大学教授 岩下哲典 先生  
洋学資料館前館長 下山純正 先生

## ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分